

ニューヨークのクリスマスの遊び方

ニューヨークデスク ジョシュ 大西

1 ロックフェラーのクリスマスツリー

ニューヨークではレストラン、お店がクリスマスの飾りを競い合ってデコレーションする。ウィンドーショッピングならぬ、お店のウィンドー飾りを見て回るのも、この時期ならではのニューヨークの遊び方だ。

マンハッタンのど真ん中にあるロックフェラーセンターのクリスマスツリーには、毎年、1億人以上が訪れる。5番街の50丁目と49丁目の間の通りから20メートルほど西に入ったところに位置する。目の前にある5番街の高級デパート(サクスフィフスアベニュー)やその近くのブティックショップ(カルティエ)のクリスマスイルミネーションは毎年の楽しみの一つだ。



▲5番街の高級デパート・サクスフィフスアベニュー 2023年12月筆者撮影



▲5番街のブティックショップ・カルティエ 2023年12月筆者撮影

クリスマスツリーといえばもみの木をイメージするが、使われている木は、実は「ドイツウヒ」で、高さは30メートルほどになる。5万個のLED電球を使ったツリーのトップには、スワロフスキーのクリスタルでできた星が美しく輝いている。ちなみに、環境に配慮するためという理由で、このLED電球に変わったのは2007年からで、例年、感謝祭の翌



▲ロックフェラーセンターのクリスマスツリー 2023年12月筆者撮影

週水曜日から1月半ばまで飾られる。

この有名なツリーの由来は、1931年にロックフェラーセンター建築中に更地にした際、6メートルほどのクリスマスツリーを飾り、その横で最初の給与支払いを行ったことが始まりらしい。1929年の大恐慌の後でも仕事ができ感謝の意味合いもあったとのこと。今では点灯式がライブ放送され全世界の何億人という人々が見ているというのは想像できなかつたろう。



▲1931年最初のクリスマスツリー ウィキペディアより

2 くるみ割り人形劇は、日本の忠臣蔵？

12月のニューヨークはイベントだらけ。その中で絶対外せないのは、「くるみ割り人形劇」だ。ニューヨーカーなら、毎年この演目を見ないと年が越せないという人も多い。この演目を47回上演する、最高峰のニューヨーク・シティ・バレエ団だけでなく、中学、高校、大学の演劇部など至る所で上演される。クラシックバレエ団の収入の40%はクリスマスシーズンのこの劇で稼ぐというのだから、どれほどの人気かわかるだろう。まさしく、日本の年末に上映される「忠臣蔵」のようなものかも。

少し話が逸れるが、アマゾンなどのセールの代名詞になっている、「ブラックフライデー」の由来も11月に売り上げが伸びて、やっと黒字になる日という意味合いがある。一昔前までは、年間の売り上げの6割以上がこのクリスマスシーズンに稼ぐお店が多かったため、10月まで赤字で、このブラックフライデーあたりでやっと年間で黒字になるということだったらしい。今では、そこまでこの季節に比重を置かない店が増えてはいるものの、アメリカでは、クラシックバレエ団のように、まだまだクリスマス依存型のビジネスも残っている。

さて、話を戻そう。くるみ割り人形劇を、いつも決まった劇団のものしか見ないという方もいるが、一般的には、いろいろな上演を楽しむ。今年は、近所の高校の演技を見に行ってみようとか、あそこの大学が面白いらしいよという噂を聞けば、そこにしようとか。どっちに転んでも、どこかで見ないとイケない。

そこまで虜にするこの劇の由来を見よう。歴史はそれほど古くはない。アメ

リカで人気になるのは、1960年代に入ってから。そのきっかけになったと考えられるのは、アメリカのバレエの父と言われている、ジョージ・バランシンが1954年に創設に関わったニューヨーク・シティ・バレエ団で新しく演出した、くるみ割り人形だろう。子供の登場する数が最大でもあり、初めて見る人にもわかりやすく、家族みんなで楽しめるようになっている。



▲くるみ割り人形

2023年12月 筆者撮影

最後に、くるみ割り人形だが、元々ドイツで17世紀に作られた。当時は口にくるみを挟んで割れる機能がついていた。ドイツでは今でもくるみはおやつによく食べる。生活必需品だった当初の人形から、今では背中仕掛けを使って口だけが動かせる飾りだけのものがほとんどになったが、クリスマスシーズンには様々な衣装のくるみ割り人形のコレクションを飾る家庭が多い。この人形は、悪霊を退治し、幸運を運ぶと言われている。今年も、幸運を受け取りに、多くのファミリーがくるみ割り人形劇を見にニューヨークの街にやってくる。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】